

各関係機関長 様

高知県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報について

病害虫発生予察特殊報第4号を送付します。

平成21年度病害虫発生予察特殊報第4号

1. 病 名 **スイカ退緑えそ病(仮称)**

2. 病原ウイルス ウリ類退緑黄化ウイルス Cucurbit chlorotic yellows virus ; CCYV

3. 発 生 作 物 スイカ

4. 発生経過

平成21年11月下旬、高知県内の施設スイカほ場において、中～下位葉に退緑・黄化症状およびえそ症状を呈する株が確認された。高知県農業技術センター及び病害虫防除所で遺伝子診断(RT-PCR)により検定した結果、CCYVによるスイカ退緑えそ病(仮称)であることが確認された。本県のスイカにおける本病の発生は、現在までのところ約1haである。他県での発生は、これまでに熊本県で確認されており、平成22年1月20日に特殊報が発表されている。

なお、本県ではこれまでに施設メロン及び施設キュウリで同じウイルスによる病害が発生しており、平成21年11月4日に「メロン退緑黄化病」、平成22年2月1日に「キュウリ退緑黄化病」に関する特殊報を発表している。

5. 病 徴

初期症状として不鮮明な退緑斑紋を生じ、増加・癒合しながら黄化、拡大して斑状の黄化葉となり、症状が進展すると葉脈部分を残して葉の全面が黄化する(図1)。これらの症状はメロンキュウリと類似しているが、スイカでは葉の黄化に加えて、黄化葉の周縁または葉脈間からえそを生じ(図2、3)、症状が激しい場合は葉が枯死する。

熊本県が行った接種試験では、病原ウイルス接種20日後から接種葉より上位の葉に病斑が生じ、生長点方向の葉に進展することが確認されている。

6. 伝染方法

本ウイルスは、タバコナジラミバイオタイプQ及びバイオタイプBが媒介(半永続伝搬:ウイルス媒介能力が数時間から数日間持続される)する。経卵伝染、汁液伝染、土壌伝染および種子伝染は確認されていない。

7. 感染植物

現在までに感染が確認された作物は、キュウリ、メロン、スイカである。

また、雑草ではオランダミナグサ及びクワクサで感染が確認されている。

さらに、接種試験ではウリ科、ナス科、アカザ科など、広範な植物に感染することが確認されている。

8. 防除対策

(1) 育苗期からの薬剤防除などにより苗から本圃へのタバコナジラミの持ち込みを防ぐとともに、ベストガード粒剤などの定植時処理など低密度時からの防除を徹底する。特に、定植直後の感染は大きな被害につながるため、この時期の対策を重視し、サンマイルフロアブルなどで早めに防除する。なお防除の際は、薬剤抵抗性発達回避のため同一系統の薬剤の連用は避ける。

(2) 施設開口部への防虫ネット(1mm目以下(0.4mm以下が望ましい))被覆、黄色粘着シートや近紫外線カットフィルムの利用など、成虫の侵入防止と密度低下に努める。

- (3) タバコナジラミは多くの植物に寄生するので、ほ場内及び周辺の雑草は除去する(播種、定植前から実施)。また、施設内へは作物以外の植物を持ち込まない。
- (4) 発病株は伝染源となるため、発見次第直ちに抜き取り、ビニル袋などに入れて枯死するまで密閉処理する。
- (5) 栽培終了時に施設を密閉してタバコナジラミを死滅させ、施設外への飛散を防止する。

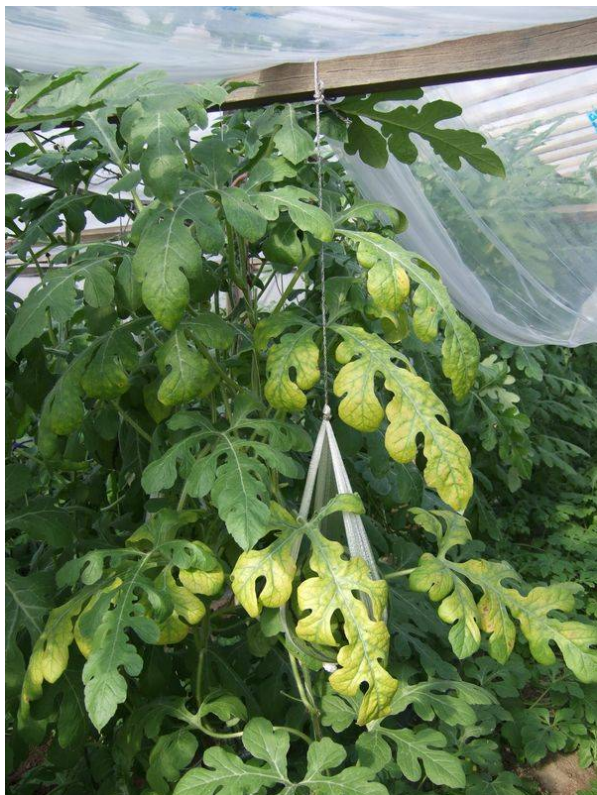


図1: 葉脈を残し黄化、下巻きした中位葉とえその発現した中下位葉



図2: やや病勢の進展した黄化葉(軽いえそを生じる)



図3: 病勢が進展し、激しいえそが生じた黄化葉